

令和 8 年度事業計画

【現状と課題】

令和 7 年度のいわて花巻空港の利用者数は、484,968 人（前年度比 100.6%）と、昨年度を僅かに上回った。

前年度から増加した要因としては、国内線において大阪・関西万博の開催による関西方面への需要が増加したことなどが考えられる。

1 国内線について

令和 7 年度の国内定期便の利用者数は 449,009 人となり、前年度（444,294 人）比 101.1%、4,715 人の増加となった。また、利用率も 74.3%と、前年度を 4.4 ポイント上回っている。

一方で、国内線を取り巻く事業環境が悪化している中で、令和 5 年度下期ダイヤ以降、一部路線が減便となり現在も続いているほか、令和 8 年度上期ダイヤでは神戸線が高需要期に限定した期間運航となっている。また、中東情勢を背景とした燃油費高騰等も生じており、航空ネットワークの維持・利便性向上に向けた取組を強化していく必要がある。

なお、令和 8 年度は、名古屋線が就航から 15 周年を迎えることから、これを契機とした利用促進を図っていく必要がある。

2 国際線について

令和 7 年度の台北線の利用者数は 32,919 人となり、前年度（32,272 人）比 102.0%、647 人の増加となった。また、利用率も 87.9%と、前年度を 1.7 ポイント上回っている。

一方で、同路線を運航する航空会社では、パイロットのコンディションを調整するため、上期ダイヤで花巻路線を含む一部路線を運休したほか、利用状況に応じた路線見直しを行っているとの情報もあることから、インバウンド・アウトバウンド双方の利用促進を更に進め、航空会社に路線の維持・拡充を働きかけていく必要がある。

また、運休中の上海線については、中国外務省が日本への渡航自粛を呼びかけた令和 7 年 11 月以降、全国的に中国路線の運休や欠航が続いている。花巻路線も現在まで運航の見通しが立っていないことから、今後も運航再開に向けて情報収集するとともに、時機を捉えて航空会社に働きかけていく必要がある。

加えて、チャーター便については、令和 6 年度から継続的に運航されている韓国をはじめ、過去に実績のある国・地域などからの継続的な運航に向けて、旅行会社等への働きかけに取り組んでいく必要がある。

こうした状況を踏まえ、令和 8 年度は次の事業に重点的に取り組んでいく。

【重点方針】

1 国内線利用促進事業

- 令和7年10月に就航したF D A福岡線の安定的な運航に向けて、プロモーションや旅行商品の造成支援等を通じて需要の底上げを図るとともに、みちのく潮風トレイルへのツアー商品での利用など、航空会社等と連携して多様な視点での利用促進を図っていく。
- 繁忙期に予約が困難となっている札幌線の増便又は大型化や、下期に減便となる名古屋線の増便に向けて、需要動向を勘案した利用促進施策を展開し、需要が落ち込む冬季利用の底上げや、新たな顧客層の開拓を図る。さらに、就航15周年を迎える名古屋線については、周年を契機としたプロモーションの展開、震災からの復興支援をきっかけとした中部圏との交流を支える同路線の意義についてあらためて発信するとともに、双方向の利用促進に取り組む。
- 上期ダイヤでは期間限定で運航される神戸線の運航期間の拡大に向けて、県及び関係自治体と緊密した連携を取りながら、航空会社に対して働きかけを行うとともに、需要の創出に取り組んでいく。

2 国際線利用促進事業

- 台北線について、航空会社の利用状況に応じた路線見直し等も踏まえ、路線の維持や安定的な運航に向けて、航空会社や旅行会社に対する支援を行うとともに、現地でのプロモーションによるインバウンド利用の促進や、パスポート取得キャンペーン及び利用促進キャンペーン等によるアウトバウンド需要の拡大など、双方向の利用促進に取り組む。
- 全国的に中国路線の運休や欠航が続いている状況ではあるが、上海線の運航再開に向けて、情報収集や航空会社への働きかけを行う。
- 国際線の運航拡大に向け、航空会社や旅行会社に対し、チャーター便の継続的な運航を働きかけていく。